

ニュースリリース
 報道関係各位

2017年11月13日
 日本オラクル株式会社
 株式会社 住環境計画研究所

国内最大規模！ノーベル経済学賞で注目された行動経済学を活用 生活者の自発的な省エネ行動を促す 日本初の大規模ナッジ※実証事業発表

全国エネルギー事業者 5 社が協力 環境省の掲げる CO₂ 削減目標数値に貢献

日本オラクル株式会社（本社：東京都港区、執行役 最高経営責任者：フランク・オーバーマイヤー）と、株式会社住環境計画研究所（所在地：東京都千代田区、代表取締役会長 中上英俊）は、環境省の「平成29年度低炭素型の行動変容を促す情報発信(ナッジ)による家庭等の自発的対策推進事業」(<http://www.env.go.jp/press/103926.html>)の委託を受け、「パリ協定」における 2030 年度までに温室効果ガスの排出量を 2013 年度比で 26%削減するという日本の目標数値達成に向け、貢献する実証事業をスタートします。

※ ナッジ (nudge) は、「そつと後押しする」ことを意味する英単語。行動経済学等の理論を活用し、社会・環境・自身にとってより良い行動を促すことを指す。今年度ノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラー教授（米シカゴ大学）らが公共政策への活用を提唱したことで注目を集める。

当プロジェクトは、委託事業の中の「生活者・事業者・地域社会の『三方良し』を実現する日本版ナッジモデルの構築」のプロジェクトです。生活者一人一人が“省エネライフスタイル”を実現できる社会に向け、全国エネルギー事業者 5 社（北海道ガス株式会社、東北電力株式会社、北陸電力株式会社、関西電力株式会社、沖縄電力株式会社）にご協力いただき、年間で全国延べ 30 万世帯を対象に、自発的な CO₂ 削減アクションを促す大規模ナッジの実証事業を行います。当プロジェクトは国内最大の事業となります。



左より沖縄電力 仲里様、東北電力 阿部様、日本オラクル 村井様、日本オラクル オーバーマイヤーCEO
 環境省 水谷様、住環境計画研究所 中上様、北海道ガス 前谷様、北陸電力 尾島様、関西電力 彌園様

2017年11月13日（月）には、東京ガーデンテラス紀尾井町（東京都千代田区）で「日本初の大規模ナッジ実証事業発表会」が行われ、環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室 水谷好洋室長、代表事業者の日本オラクル フランク・オーバーマイヤーCEO および村井建介ディレクター、共同事業者の住環境計画研究所 中上英俊会長、協力事業者の全国エネルギー事業者 5 社の代表者らが、本事業の成功に向けて一致団結して取り組むことを確認いたしました。

日本版ナッジ・ユニットとは：

関係省庁や環境省「平成 29 年度低炭素型の行動変容を促す情報発信（ナッジ）による家庭等の自発的対策推進事業」における採択事業者、産業界や専門家等から成る産学官連携の取り組みのこと。

<http://www.env.go.jp/press/103926.html>

事業の概要：

グローバル 10 カ国 100 社で実績のある オラクル社の「ナッジモデル」を、日本固有の特性（キャラクター文化、高いモバイル保有率、エネルギー事業者の地域密着性など）に適用させ、生活者のエネルギー使用に係る行動変容やライフスタイルの変革を促すことで、持続的な CO2 削減を図っていきます。生活者、エネルギー事業者、地域社会がそれぞれ自走して CO2 削減を目指す、三方良しの「日本版ナッジモデル」を 5 年間かけて構築することを目的としています。

まず初年度にあたる 2017 年度は、北海道ガス株式会社、東北電力株式会社、北陸電力株式会社、関西電力株式会社、沖縄電力株式会社のエネルギー事業者 5 社の協力のもと、各社管内の約 6 万世帯（計約 30 万世帯）に、パーソナライズされたエネルギー使用情報やアドバイスからなる「省エネレポート」を、計 4 回送付します。また、日本固有のキャラクター文化に着目し、省エネレポートにキャラクターを取り込むことによる CO2 削減の上積み効果も検証していきます。具体的には、オラクル社が海外で実績のあるスタンダードデザインと、本ナッジ事業向けに開発されたキャラクターが盛り込まれたデザインの 2 パターンの省エネレポートを約 3 万世帯ずつに送付し、各々のパターンがもたらす CO2 削減効果を比較します。これら CO2 削減効果以外にも、省エネレポートを受け取った生活者もつ、エネルギー事業者へのイメージの変化、省エネ意識の変化など、質的な効果測定も実施することで、ナッジの効果を多面的に検証していきます。さらに、もうひとつの日本固有の状況である、高いモバイル保有率にも着目し、モバイルアプリや SNS を活用したナッジモデルのあるべき姿を、消費者調査を通して仮説検証します。

スタンダード「省エネレポート」：

ご家庭の省エネレポート
2017年12月00日
お客さま番号 0123456789

お客さまのエネルギー使用状況と省エネ・節約のヒントをまとめたレポートをお届けします。

このレポートを参考にして、ご家庭の光熱費も、地球環境へのCO₂排出量もいっしょに減らせるおトクな省エネ行動をお試しください。

<http://www.epco.co.jp/suggestion3/>

先月のご使用量比較

省エネ上手なご家庭	465 kWh
よく似たご家庭	602 kWh
お客さま	648 kWh

2016年6月21日~7月20日
管内の最大100世帯のよく似たご家庭のデータを参考にしています。省エネ上手なご家庭とは、電気使用量の少ない上位20%の世界を指します。詳細は特設サイトをご確認ください。 <https://j-nudge.jp/her>

よく似たご家庭の使用量を上回っています。

よく似たご家庭の使用量を **8%** 上回っています

先月のご使用量比較、いかがでしたか？

でんきを上手に使ったり、省エネのコツをつかむと、電気料金もおトクに、さらに地球に排出するCO₂も減らせて「一石二鳥」！ぜひ、下にある「省エネのコツ」や裏面の「節約のヒント」などを参考に、省エネ行動にチャレンジしてみませんか？

省エネに役立つヒントがいっぱい！

省エネのコツ

- 客はカーテンで冷気を遮断する 年間最大1,000円の節約
- 節水型シャワーヘッドを取り付ける 年間最大6,000円の節約

[裏面へ](#) →

表面

月ごとの使用量の推移

今年の現時点までのご使用量は、昨年のご使用量を6%下回っています。

節約のヒント

暖房器具の使い方を工夫する

ガス・石油ファンヒーター、電気カーペット、電気こたつといった暖房器具は、エネルギー消費効率ではエアコンより劣るものの、その分使用を控えた場合の省エネ効果が大きくなります。使い方を工夫して光熱費を節約しましょう。

いずれも設定温度は20℃か「中」に設定し、必要な時だけ使うと効果的です。また、お出掛けや就寝の前は早めに電源を切るか、タイマー機能を活用すると、より一層の省エネにつながります。なお、ガス・石油ファンヒーターのフィルターは定期的に掃除しましょう。

年間最大4,500円の節約

これまでの電気ご使用量との比較

過去6カ月のお客さまのご使用量は、よく似たご家庭を上回っています。

20,000円の出費増です

お問い合わせ先

〇〇〇株式会社 電話:0000-000-000(平日0時~0時まで)

本レポートの内容や、本事業に関する詳細やよくあるご質問については、特設サイト (<https://j-nudge.jp/her>) をご確認ください。

裏面

本実証キャラクター「そらたん」:



「そらたん」は、地球に存在する大気、空気の精。
最近、自身の熱が上がってきていたり、体内の CO₂ 濃度が高くなりつつあることから地球環境の危機を危惧している。「そらたん」は、ユーザーの省エネ行動と連動する形で自身の変化を見える化（省 CO₂ 行動の促進時は「澄んだ爽やかな色」に、そうでない場合は「濁った色」に）しながら、CO₂ 削減行動につながるようなメッセージを、ユーザー目線でやわらかく、わかりやすく、ふわふわと伝える。かわいらしく、守りたくなる存在。

また、本事業においては、上記家庭向けプログラムの他に、学校教育、職場教育を通じたナッジプログラムを開発、実施する予定です。

事業背景:

2016年に採択された、京都議定書に続く温暖化対策を定めた国際協定「パリ協定」において、日本では2030年度までに、温室効果ガスの排出量を、2013年度比で26%削減する目標を掲げています。特に家庭・業務部門を含む民生部門では、約40%という大幅な排出量削減が必要といわれています。この目標の達成には、従来の取組の延長では実現が困難と考えられ、革新的なイノベーションによる解決が求められます。一方で、民生部門の排出量は、技術的なイノベーションやアプローチだけでなく、生活者一人一人が、自発的に環境に配慮した行動をとることが重要となっています。

オラクル社の海外でのナッジ事業実績:

オラクル社は2007年以降、グローバル10カ国100社のエネルギー事業者と、生活者の省エネ行動変容を促すナッジ事業を展開してきた行動型省エネサービスのリーディングカンパニーです。これまでに全世界で平均2.0%の持続的な省エネ効果を継続しており、約1,200万トンのCO₂排出量削減、ならびに約2,280億円の家庭の光熱費低減に貢献しています。仮に日本全国の家庭で2%の省エネ効果を実現できた場合、約300万トンCO₂/年の削減ポテンシャルに相当します。これは、日本政府が地球温暖化対策計画において「国民運動の推進」で2030年度までに計画している削減量（562万トンCO₂）の半分程度を1年で達成するポテンシャルに相当します。

当件に関するお問い合わせ

日本オラクル株式会社 広報室 石川 電話番号: 03-6834-4837

当事業のホームページ <https://j-nudge.jp/her/>

そらたん 省エネ

検索 